

(様式 1)

地域間幹線系統別確保維持計画

令和 3 年 6 月 日

(住 所) 東京都渋谷区代々木二丁目 2 番 2 号
(名 称) ジェイアールバス関東株式会社
(代表者名) 代表取締役社長 中村 泰之 印

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名 : 諏訪湖周遊スワンバス 循環線 (内回り線)
運 行 区 間 : 岡谷駅南口～岡谷駅南口
計 画 期 間 : 令和 3 年 1 0 月 1 日～令和 6 年 9 月 3 0 日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況)

本系統は、諏訪湖を周遊しながら岡谷市・諏訪市・下諏訪町の 3 市町村を結ぶ地域幹線交通として、各市町村民の日常生活を支える生活交通の役割を担っている。

また、当該地域は博物館等の観光施設や四季折々の自然景観や温泉等の地域資源、日本酒、味噌、うなぎ等の地場産品にも恵まれ観光客など地域外からの来訪者の移動手段としても利用されている。

運行経路上、上諏訪駅から下諏訪駅を經由して岡谷駅まで向かう区間は、JR 中央東線と並行しているが、JR が当該区間に 3 駅を設けているのに対し、3 駅に接続するとともに 6 0 か所の停留所を設けて鉄道の機能と連携しつつ沿線住民の日常生活の移動を支援している。

岡谷駅から SUWA ガラスの里を經由して上諏訪駅に向かう区間は鉄道網が整備されていないことから、地域間を結ぶ唯一の公共交通機関として地域住民の移動手段として生活を支えている。さらに、各市町村で運行している生活路線 (シルキーバス、かりんちゃんバス、あざみ号) と一体となった地域内生活交通網を形成するため、3 市町村において、JR の各駅、停留所で乗り換えができる運行形態を整備している。

運行経路の沿線には、官公庁、金融機関、温泉施設等の公共施設、総合病院、商業施設があり、地域高齢者の利用が増えている傾向があり、人口推計を見ると今後 3 市町ともに高齢化が増加する傾向にあり、運転免許証の自主返納の動きが進んでいる状況下において、高齢者の買い物や通院等の外出促進を踏まえると地域住民の生活交通手段として本系統の確保維持は重要である。しかし、令和 2 年 3 月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減っている状況であり、令和 3 年度においても利用者の増加には一層時間を要する可能性がある。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

生活路線として、利用が多い高齢者を中心に利便性の良い公共交通サービスを継続的に提供し、輸送量 15.0 以上を維持する。

(2) 運行による効果

本システムを維持する事により、3市町村の高齢者等の移動手段が確保される。幹線、支線のネットワークが連携することで、効率的な運行が実現でき、買い物・通院・社会参加といった日常生活に必要な外出や移動を支援する効果が期待できる。

4. 3の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

岡谷市・諏訪市・下諏訪町の各市町とジェイアールバス関東が主体となり、各市町のコミュニティバスとの連携により利便性の向上を図る。

○若年層の利用増を目的としたPR事業の実施（市町）

諏訪湖周2市1町管内高校に通う高校生向けに、バス利用促進の「ポケットティッシュ」をJR上諏訪駅、下諏訪駅、岡谷駅の3駅で配布し利用促進のPR活動を引き続き行う。

○諏訪エリアの観光客を取り込むための事業（市町）

諏訪湖周2市1町で作成している諏訪湖周観光マップを利用し、諏訪湖周に来た観光客がスワンバスを利用した観光が出来るよう観光モデルコースを引き続きPRする。また、令和4年には諏訪大社の御柱祭も開催されることから観光客に利用してもらうため宿泊施設にもパンフレットを設置する。

○バス利用者の利用満足度向上事業（事業者）

バス利用満足度に大きな影響を与える運転士による接客サービスを向上するため、今まで以上に接客研修を行う。また、乗降調査に合わせドライバーの接客に対するアンケートも実施し接客の改善を図る。

5. 費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R3. 10~R4. 9	円 22,316,271	円 3,423,000	円 3,423,000	円 15,470,271	円 0
R4. 10~R5. 9	円 22,316,271	円 3,423,000	円 3,423,000	円 15,470,271	円 0
R5. 10~R6. 9	円 22,316,271	円 3,423,000	円 3,423,000	円 15,470,271	円 0

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

6. 収益改善のために行った取組状況

- 時刻表や分かりやすい乗り換えマップ等の配布。（無料）
- 若年層を対象とした乗車体験イベント（諏訪湖周スワンバス体験乗車で巡る夏休み公共施設）の実施。
- バス応援施設「バス友」と連携した利用促進企画。
- 運転免許証返納者に対しバス利用を促すための無料回数券配布。
- 高齢者でも乗り降りしやすいバリアフリー車両（ノンステップバス・車いすの車内固定）での運行。
- スマホ乗車券の導入。

7. 生産性を向上する取組

(1) 取組内容
<p>○乗降調査を実施して、乗客のニーズに合わせたダイヤの見直し等を行い輸送量の向上を図る。</p> <p>○職場内研修等によるエコ運転の実施を行い、燃料費等の経費削減を図る。</p>
(2) 実施主体
ジェイアールバス関東株式会社
(3) 定量的な効果目標（収支改善率1%以上を原則）
上記の取り組みを実施することにより収支率を対前年1%以上の改善。
(4) 実施に向けたスケジュール
<p>令和3年10月～効果目標（収支改善率1%以上）達成に向け随時協議を行う。</p> <p>令和4年1～3月を目途に乗降調査を実施。</p> <p>令和4年5～6月の1ヶ月間を利用促進啓発運動</p> <p>通年において時刻表及び諏訪湖周観光マップの配布</p>
(5) 実施時期
上記の日程で実施
(6) その他特記事項
8. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表5に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所)	諏訪郡下諏訪町広瀬町5325
(所 属)	諏訪支店
(氏 名)	原 和幸
(電 話)	0266-27-8673
(F A X)	0266-27-4027
(e-mail)	hara@jrbuskanto.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

令和3年6月 日

(住所) 長野県諏訪市四賀武津 103 番地 6
 (名称) 諏訪交通株式会社
 (代表者名) 代表取締役 山谷 恭博 印

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系統名 : 諏訪湖周遊スワンバス 循環線 (外回り線)
 運行区間 : SUWA ガラスの里 ~ SUWA ガラスの里
 計画期間 : 令和3年10月1日~令和6年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況)

本系統は、諏訪湖を周遊しながら岡谷市・諏訪市・下諏訪町の3市町村を結ぶ地域幹線交通として、各市町村民の日常生活を支える生活交通の役割を担っている。

また、当該地域は博物館等の観光施設や四季折々の自然景観や温泉等の地域資源、日本酒、味噌、うなぎ等の地場産品にも恵まれ観光客など地域外からの来訪者の移動手段としても利用されている。

運行経路上、岡谷駅から下諏訪駅を経由して上諏訪駅まで向かう区間は、JR中央東線と並行しているが、JRが当該区間に3駅を設けているのに対し、3駅に接続するとともに60か所の停留所を設けて鉄道の機能と連携しつつ沿線住民の日常生活の移動を支援している。

上諏訪駅からSUWA ガラスの里を経由して岡谷駅に向かう区間は、鉄道網が整備されていないことから、地域間を結ぶ唯一の公共交通機関として地域住民の移動手段として生活を支えている。さらに、各市町村で運行している生活路線 (シルキーバス、かりんちゃんバス、あざみ号) と一体となった地域内生活交通網を形成するため、3市町村において、JRの各駅、停留所で乗り換えができる運行形態を整備している。

運行経路の沿線には、官公庁、金融機関、温泉施設等の公共施設、総合病院、商業施設があり、地域高齢者の利用が増えている傾向があり、人口推計を見ると今後3市町ともに高齢化が増加する傾向にあり、運転免許証の自主返納の動きが進んでいる状況下において、高齢者の買い物や通院等の外出促進を踏まえると地域住民の生活交通手段として本系統の確保維持は重要である。しかし、令和2年3月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減っている状況であり、令和3年度においても利用者の増加には一層時間を要する可能性がある。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

生活路線として、利用が多い高齢者を中心に利便性の良い公共交通サービスを継続的に提供し、輸送量 15.0 以上を維持する。

(2) 運行による効果

本システムを維持する事により、3市町村の高齢者等の移動手段が確保される。幹線、支線のネットワークが連携することで、効率的な運行が実現でき、買い物・通院・社会参加といった日常生活に必要な外出や移動を支援する効果が期待できる。

4. 3の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

岡谷市・諏訪市・下諏訪町の各市町と諏訪交通が主体となり、各市町のコミュニティバスとの連携により利便性の向上を図る。

○若年層の利用増を目的としたPR事業の実施（市町）

諏訪湖周2市1町管内高校に通う高校生向けに、バス利用促進の「ポケットティッシュ」をJR上諏訪駅、下諏訪駅、岡谷駅の3駅で配布し利用促進のPR活動を引き続き行う。

○諏訪エリアの観光客を取り込むための事業（市町）

諏訪湖周2市1町で作成している諏訪湖周観光マップを利用し、諏訪湖周に来た観光客がスワンバスを利用した観光が出来るよう観光モデルコースを引き続きPRする。また、令和4年には諏訪大社の御柱祭も開催されることから観光客に利用してもらうため宿泊施設にもパンフレットを設置する。

○バス利用者の利用満足度向上事業（事業者）

バス利用満足度に大きな影響を与える運転士による接客サービスを向上するため、今まで以上に接客研修を行う。また、乗降調査に合わせドライバーの接客に対するアンケートも実施し接遇の改善を図る。

5. 費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R3.10~R4.9	円 11,840,904	円 3,734,000	円 3,734,000	円 4,372,904	円 0
R4.10~R4.9	円 11,840,904	円 3,734,000	円 3,734,000	円 4,372,904	円 0
R5.10~R6.9	円 11,840,904	円 3,734,000	円 3,734,000	円 4,372,904	円 0

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

6. 収益改善のために行った取組状況

- 時刻表や分かりやすい乗り換えマップ等の配布。（無料）
- 若年層を対象とした乗車体験イベント（諏訪湖周スワンバス体験乗車で巡る夏休み公共施設）の実施。
- バス応援施設「バス友」と連携した利用促進企画。
- 運転免許証返納者に対しバス利用を促すための無料回数券配布。
- 高齢者でも乗り降りしやすいバリアフリー車両（ノンステップバス・車いすの車内固定）での運行。
- スマホ乗車券の導入。

7. 生産性を向上する取組
(1) 取組内容
<p>○乗降調査を実施して、乗客のニーズに合わせたダイヤの見直し等を行い輸送量の向上を図る。</p> <p>○職場内研修等によるエコ運転の実施を行い、燃料費等の経費削減を図る。</p>
(2) 実施主体
諏訪交通株式会社
(3) 定量的な効果目標（収支改善率1%以上を原則）
上記の取り組みを実施することにより収支率を対前年1%以上の改善。
(4) 実施に向けたスケジュール
<p>令和3年10月～効果目標（収支改善率1%以上）達成に向け随時協議を行う。</p> <p>令和4年1～3月を目途に乗降調査を実施。</p> <p>令和4年5～6月の1ヶ月間を利用促進啓発運動</p> <p>通年において時刻表及び諏訪湖周観光マップの配布</p>
(5) 実施時期
上記の日程で実施
(6) その他特記事項
8. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表5に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

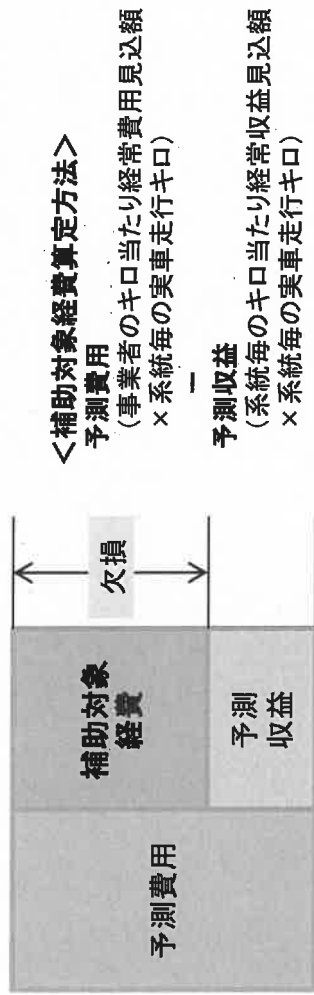
【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所)	長野県諏訪市四賀武津103番地6
(所 属)	諏訪交通株式会社
(氏 名)	池上 勝
(電 話)	0266-53-1121
(FAX)	0266-58-1194
(e-mail)	info@suwakotsu.com

地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、地域間交通ネットワークを形成する地域間幹線系統の運行について支援。

補助内容

- 補助対象事業者
 - 一般乗合旅客自動車運送事業者又は地域公共交通活性化再生法に基づく協議会
- 補助対象経費
 - 予測費用(補助対象経常費用見込額)から予測収益(経常収益見込額)を控除した額



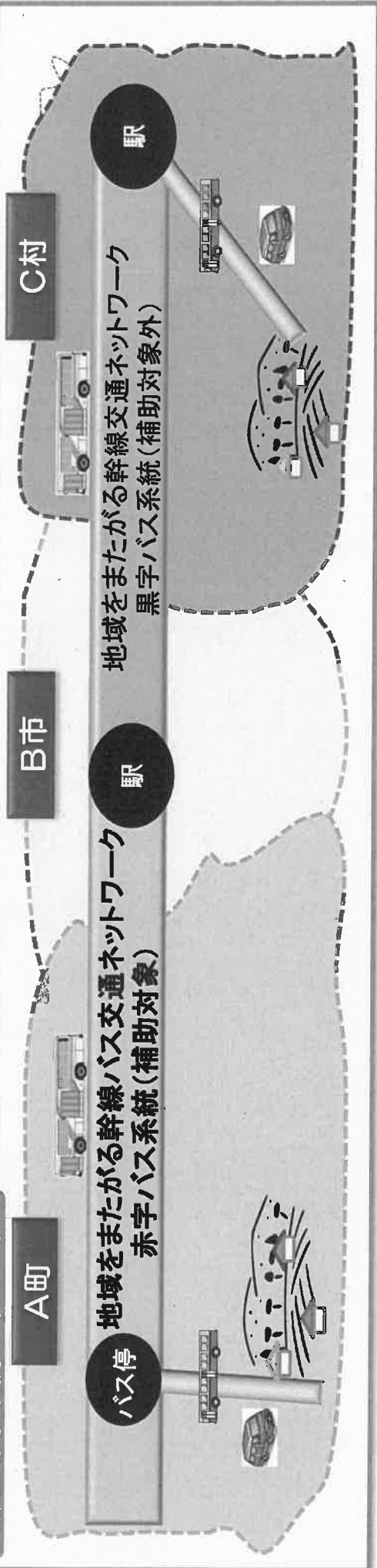
- 補助率 1/2
- 主な補助要件
 - ・複数市町村にまたがる系統であること (平成13年3月31日時点で判定)
 - ・1日当たりの計画運行回数が3回以上のもの
 - ・輸送量が15人～150人/日と見込まれること

※ 1日の運行回数3回(朝、昼、夕)以上であって、1回当たりの輸送量5人以上(乗用車では輸送できず、バス車両が必要と看せられる人数)

※ ①復興特会から移行する応急仮設住宅非經由系統のうち、東日本震災前に輸送要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統、②熊本地震前に輸送量要件を満たし、補助対象期間に輸送量見込が要件を満たさない系統については、輸送量要件を緩和(一定期間)

・経常赤字が見込まれること

補助対象系統のイメージ



長野県生活交通確保維持改善計画に「諏訪湖周スワンバス (外回り線・内回り線)」を位置付けることについて

1. 現状と課題（総論）

- ・諏訪湖を周回するスワンバスについては、JR バス関東株式会社、諏訪交通株式会社の協力の下、現在、諏訪市・下諏訪町・岡谷市の3市町共同で運行。
- ・スワンバスの沿線には、官公庁、金融機関、温泉・スポーツ施設等の公共施設に加え、各市町村の総合病院（岡谷市民病院、諏訪赤十字病院、諏訪共立病院）や商業施設があり、スワンバスを利用し、市民・町民が地域を越えた行き来をするとともに、諏訪圏内に訪れる観光客の観光・宿泊施設を往来する移動手段としても利用されているが、利用者数は昨今減少傾向であり、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により激減した。
- ・スワンバスの運行に当たっては、乗務員不足等により、令和元年12月に外回り線において、公共交通事業者間の業務移管が行われるなど、公共交通を取り巻く環境は厳しくなりつつある。
- ・また、スワンバスの運行経費の一部を毎年3市町において財政支援しているが、近年における急速な人口減少・少子高齢化に伴い、地方行政の財政状況も今後厳しくなることが懸念されているところ。
- ・このような中、持続可能な運営体制の構築、地域住民等の生活交通手段の確保維持を図るためには、3市町及び公共交通事業者が連携して利用促進に向けた取組を強化し運行収入を増加させることに加え、更なる財政的支援策も検討する必要がある。

<スワンバスにおける利用者の推移>

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
利用者数 (人)	89,116	85,250	85,620	84,206	83,159	85,182	58,646

2. 対応策

国土交通省及び長野県による補助制度「地域間幹線系統確保維持改善事業」（別紙参照）を引き続き活用することにより、当路線の維持を図ってまいりたい。

3. 協議事項

各運行事業者による「地域間幹線系統別確保維持計画（別紙）」を、県で策定する「長野県生活交通確保維持改善計画」に位置付け、地域間幹線系統補助対象路線として財政支援を受けてまいりたい。

（本路線は令和3年度地域間幹線系統確保維持計画から位置付けられた）

地域間幹線系統 及び 地域内ファイダー系統 のイメージ

資料2

